

人文地域

譯述者言

本稿はフリエールの「人文地域」と題する論文 (H.G. Fleury, Régions Humaines, Annales de Géographie, XXVI, 1917, p. 161—174) の抄譯的紹介である。原論文は既に十數年も以前に發表せられたものでもあり、その論をやる處、稍雲を攔むやうな漠然たる所もあり、殊にその六種の人文地域なるものの分類は稍大膽に過ぎるの感を抱かせないでもなく、又その最後に、人文地域の設定にあつては所謂「社會的躍進」なるものを考へるべきであるとの根本原理は示しながらも、具體的に地域の設定を如何に試むべきかの問題には少しも觸れる所がない點などに、不満は感ぜられるにしても、その人文地域なるものの考へが既に獨創的であると言ふべく、六種の地域分類も大膽に過ぎる嫌ひのある一面には鋭き着想を示し、又地域としては諸國家は餘りに大に過ぎ、市町村若しくは小教區では過小であるとする論は、吾人の實際研究に於いて採るべき方向を示してゐるやうにも考へられる。原論文に於ける多少の缺點と譯文の生硬とに拘らず、讀者が、これから何物かを抽

人文地域

小牧實繁 譯述

出せられんことを願ふ次第である。尙譯述者は、本論文が地域論の研究に於いては一應は顧みられなければならぬ歴史的一文獻であると考へてゐる。以下が、著者フリエールの所論の大略である。(昭和八年六月三日記)

吾人をして最もよく、生氣潑瀾たる筆法を以て土地を記述するを得しめる單元 (units) を探究することを試みるやうになつたのは、佛蘭西地理學派のインスピレーションの下に地理學の進歩發達したことを最もよく指示する徵證の一である。此の種の記述に於いては、その範圍 (cadre) として氣候帶及び植物帶を借用し來ることが出来る。故ハーバートソン (Herbertson) の採用した方法は斯くの如きものであつて、彼は地表に大自然地域 (Major Natural Regions) なるものを認めることを提議し (Geographical)

Journal, March, 1905) 彼は此の大自然地域なるものの中に、生活の様式と氣候及び地形の類型との關係を認めんと努力したのであつた。併しながら、人間自體を主とする地域の分類、而して、人間は宿命的に環境によつて創造せられたもの、環境によつて産出されたものであるのではないとの理念で鼓吹され、かかる理念から神祕する、地域の分類を試むべき餘地は無いものであらうかとの疑問を發し得るのである。

若し吾人が、人類自體を、生命及び努力の恒久的源泉であるとして考察するならば、此の精力の根元は、營養、生殖、及び福祉増進なる三つの本質的機能を遂行完成することに向けられることを認容せざるを得ぬのであるが、此等三つの機能の中、營養と生殖とを行ふことなくしては、あらゆる人種は滅亡の外ないのであるから、此等は世界の各人種に共通のものであるとして、各人間々の區別の要素として、人文地域分類の基礎として、福祉増進なる機能が使用せ

られ得るのである。

扱、先づ、赤道地方の多雨地域は、常に暑熱、濕潤で、其處に居住し得る人間には、多量の果物が供給せられることは事實であるが、其處の生活方式は、先の見越し^{II}先見とか、組織とか言つたものを發達せしめる體のものではない。加之、その大森林地は陰鬱且不健康である。斯かる地方は即ち魯鈍地域(Regions de Débilité)とも稱せらるべき地域で、此處には原始人種若しくは退化人種の殘黨が存在するに過ぎない。赤道附近森林地と共に、人文の觀點から、此の種の地域中に分類せらるべきものは、熱帶地方海岸の所謂「熱地」(tierras calientes)及び過熱の諸島嶼であつて、此の地域に於いては、其の住民が鮮新なる他の血液を受けるに非んば次第に墮落せざるを得ないのである。

此の魯鈍地域と全然反對の極端に存するものは、飢餓地域(Regions de la Faim)である。此れに屬するものは、先づ第一に、沍寒と、それ

によつて植物の憐む生理的乾燥との爲めに、狩獵の僥倖によつて與へられるもの以外には營養資料の不足する所の地域である。次に、此の範疇の地域に屬するものは、自然的乾燥のために植物を缺く地域、オアシスなき砂漠、全然孤立する砂漠の地域である。此の飢餓地域に屬するものは、上の記述によつても明かなる如く、極地の國土、火島 (Terre de Feu) 及びオーストラリア砂漠の大部などである。尙西藏は此の飢餓地域の水準に近いものであるが、幸、古來の商業路が此の土地を横斷し外國の富をもたらずので、多少とも此の悲惨なる水準から免れてゐるのである。

此等魯鈍地域及び飢餓地域に於いては、如何に生命の躍進があらうとも、大事の實現せられることは不可能である。住民はその苦惱の活計の水準以上に浮び出ることを殆んど知らないのである。若し彼等が、絶えず、かかる魯鈍及び飢餓地域よりも更に恵まれたる地域よりの脱出

者を容れることがなければ、恐らく彼等は滅亡し終るであらう。而して近代工業化せられたる人間、複雑なる文明所有の人間は、此等の地域には唯、開發の機會を見るのみで、其處には金銀等の貴金屬、黒檀その他の貴重木材、護謨、香油、象牙、獸皮その他の動物性物産を出し、之れが開發に當るのであるが、此の開發の結果は殆んど常に、最惡の社會的條件の輸入であり、その結果は、土着民の墮落の助長に終るのである。

人間の生活に不利なる此等兩種地域に對して、果樹は多く、穀物の收穫又多く而もその收穫の餘りに困難ならず、人間が世代を重ねての生存に必要なもの以上のものを確保するが如き地域が存する。此の種の地域は又、規則的且適度の季節風ある地方の如く、夏季降雨を見るか、若しくは地中海沿岸地方及びカリフォルニアの如く雨が冬季に多いかに従ひ、各々多少の相違を有するが、非常に古くより若しくは強力を

る人種の到來以來、早く福祉増進地域 (Régions d'Accroissement de bien-être) となつた點に於いては凡て相似てゐる。此の福祉が可なりたつぷり分布してゐる場合には、住民をして思索や美學や公民道徳などに献身せしめるに充分なる閑暇を興へるのであり、斯くして美觀の大都市が生れ、インヅニアの工事が鼓吹せられ、文化的設備が行はれるのである。藝術が發達し、繪畫が起り、文學が隆え、理想が高潮せられたのも、その他、法律が發達し、知的體系の發展したのも又此の地域に於いてである。

此の福祉増進地域は、斯くの如く文化發達の中心地であつた反面に、又、他地域の住民を誘引するを免れ得なかつた。歐羅巴に於いても亞細亞に於いても、此の種地域の歴史が相繼起する侵略の歴史であつたのは實にかかる理由による。

此の場合、最後の侵入者は、例へば清朝に於ける滿洲人、印度に於けるラジュプート人

(Rajpoutes) 古典エーゲ海地方に於ける希臘の英雄、羅馬の都市に於ける純市民 (貴族) (Patriciens) の如く、指導的貴族社會を構成するのが常であつた。

此の征服者に對して、被征服住民は、庶民、殊に屢々下層庶民 (bas peuple) を構成するが、此の下層庶民は常に反動し、征服者側の傳統の一部を受容しながら、結局其の位置を奪還するのであつた。

即ち福祉増進地域は外來者によつて征服せられ、此の外來者は物質的改善をもたらすと共に被征服者を壓迫する事實を、吾人は屢々認容するのであるが、併しながら、その國土の古い傳統が漸く征服者の側に對して擴められ、且、征服者の子孫は、その氣候等の條件のため死亡率が多く、被征服者は征服者の位置を奪還せんと努力し、かくて漸く征服者の殘存者と被征服者との結合が成り、而して、時としては、間もなく新たなる他の侵略者の脅威を受けるのであつ

た。併しながら、此の福祉増進地域に於ける大勢は、征服者と被征服者との區別が時と共に淡まり、土着人の根幹が、その言語その文明を變化せしめた後、次第にその位置とその役割とを奪還するのであつた。

次に吾人は、一方福祉増進地域と他方飢餓地域若しくは魯鈍地域との間に、自然を制御し幸福を獲得するためには一定の努力を支拂はねばならぬ如き地域、即ち努力地域 (Regions d'Effort) を考へ得る。

此の努力なるものは、その地域地域により異なる性質のものであり得る。福祉増進地域の北方に横たはる地域に於いては、此の努力は普通、森林を制御することに向けられる。此の努力は、人類が鐵器を有しなかつた時代に於いては、左して大なる範圍には及ばなかつたのである。而して、これが、此の地域の、歴史の大潮流に參加することの比較的遅かつた理由である。

此の地域に對して、福祉増進地域と魯鈍地域

との中間に包含される地域に於いては、人間の努力は屢々乾燥に對する設備の組織に向けられた、若し彼等が此の乾燥に對する努力に於いて成功すれば、小さいながらも此處に一個の樂園を創造することが出来たのであるが、唯、遊牧民の侵入に對する防禦のため強大なる組織を必要としたのである。ナイル河流域の國土、メソポタミア、ダマスクスの國土の歴史は、實に此の乾燥に對する設備と遊牧民に對する防禦の歴史であつたとも言へるのである。此等努力の國土は、古代史上の專政帝國であるが、政治的には武力の上に、社會的には宗教的組織の上に、經濟的には農業の發達の上に基礎を置いたのであると言へる。

或る努力地域に於いては、森林が一度征服せらるるや富裕なる國土となつたものがある。かかる地域は即ち福祉増進地域の縁邊に當る國土であり、而してかかる地域に於いては唯適度の努力が要せられるのみである。此の地域の類型

は即ち巴里盆地であつて、實を言へば、此の盆地はその土地の富と、その日當りよき部分に於ける葡萄園とを有して、殆んど福祉増進地域の中に列せらるべき資格を有する。印度及び支那の或る地方及びメソポタミア及びエジプトの一部分は又同様の場合に當るのである。

これと反對に、努力地域にも、困難なる努力の地域が存在し、此處に於いては、福祉増進の可能のためにすら、烈しい勞働、撓みなき訓練、溝渠又は運河の建設、土地の改良等を要するのである。此の地域の範疇に屬するものは、歐羅巴平原の大部分であつて、此の地域は佛蘭西などよりも遙かに遅く歐羅巴文明の歴史の中に入り來つたのである。

上述の適度の努力の地域は福祉増進地域の思想のインスピレーションを受け、而して可なり急速にそれに影響せられ、之れを同化し、自己の地域に適合する如く變形せしめ、而して更に之れをより恵まれざる地域に傳播せしめる。之

れに反して、上述の困難なる努力の地域に於いては、福祉増進地域の思想の侵入を徐々に受けるのみであり、このことは獨乙の平野に於いても一度ならず經驗せられた所である。

上述の如き諸種の人文地域の外に、更に二つの地域の類型が存存する。此等の地域は十九世紀に至る迄は福祉増進に向くべくも思はれなかつたのであるが、現今に於いて、此等地域の困難なるものが恒久的のものであると結論することは危険であると思はれるに至つた。

此等地域の先づ第一は、永續的困難地域 (Regions de Difficulté durable) と稱し得るものであつて、山中の高谷 (hautes vallées) とか高原とか、冬の沍寒になやむ地域で、西班牙のメセタ (Mesetas) とか佛蘭西の中央高原とか、アルプスの谷とかが此れに屬し、此處では如何に根氣よき勞働を以てしても、その收穫は可なり貧弱なるものである。かかる地域は數百年來、人間の輸出地であり、かくて、更に恵まれたる

地方を富裕ならしむるに貢献した。即ち此等地方は、それ等恵まれたる地域に對してその勞働力の多くの部分を供給し、又あらゆる種類の企業家や、精力と獨創心に富む商人やを供給したのである。此の中で中央高原はその大部分が栗の木から利益を受けるので、或る程度までは、此の地域の類型から除外さるべきであるかも知れないが、併しながら矢張困難地域の中に入れてらるべきであらう。

併しながら、此等困難地域の或るものの關係は、今日、種々の理由によつて決定的に變化しないかと言ふことを自問して見なければならなくなつた。

先づ第一に、アルプスの谷とかノルウェーの谷とかの可なり簡單なる場合が存する。即ち此等の地方の谷は水が豊富で、此處に水力電氣の發電事業が發達した爲め、又、近代工業が益々此處に發達し來つた爲めに、急に其の舊來の貧困から脱出したのである。將來尙此の水力電

氣による新生活様式及び工業様式が此所彼所に發達するとすれば、それは上述の困難地域の縁邊を選ばなければならぬであらう。何となれば、此處には必要なる動力を有する河川が流下するからである。而して此の河川動力の利用が未だ開始されてゐない場合と雖も、此等の地方は既にその關係を變化しつつあるのである。それは工業人口が所謂ブーヅ（bouge）『小さな家』の中に急激に増加したので、之れを養はなければならなくなつた爲めであつて、此處に、山國及び谷國の好機が存するのである。即ち都市の勞働者が益々多く要求する所の牛乳及び牛肉を此等の地域が供給し得ることとなつたのである。大都市若しくは工業的集團(agglomerations)の發達は、至る所に、牧畜を有利ならしめるの作用を有し、之れに對して平原地方は新興の山地、谷地々方によつて脅かされる一方、又、小麦を廉價に供給し得る新來の國々によつて脅かされることとなつたのである。

又、國際通商の發達は、歐羅巴以外の困難地域の生活に變化をもたらした。尤も此の變化は産業的開發が全世界にもたらした變化と大して異なるものではなからず。

以上に困難地域に就いて述べたが、最後に遊牧地域 (Regions de Nomadisme) が存する。此の地域は時としては可なり富んでゐるが、その住民をして土着せしめることが出来ない。即ち住民は草を發見するため、常に、諸所方々を徘徊しなければならず、此處に都市の建設せられる如き可能性は甚だ稀にしか存在しない。若し此處に都市が存在するとしても、それは寧ろ天幕の配列に類するもので、定着的文明の國土に於ける如く、組織された都市 (city organized) ではないのである。

彼等遊牧民は可なり天を研究したものであり、又その科學にも宗教にも進化發達の展開があつたのである。而して彼等遊牧民の廣大なる遊牧地域なるものが、東は印度、西は地中海の

中間地に存在することを思へば、彼等の世界文化に對する貢獻の重要であつたことは察するに餘りある。即ち彼等遊牧民は、金、香、藥味、象牙、等の高價なる嵩張らぬ貴重商品の運搬に當つたのみならず、又思想の傳播取引にも當つたのであり、その他又彼等は部族成員間の協力なる傳統を有し、その道徳を世界に向つて擴充したのである。

遊牧地域の歴史上に於ける重要な意義は周知の如くで、今更事新らしく論議する必要はない。彼等遊牧民が古來の習慣に従つて徘徊し得る限りは、彼等は殆んど歴史といふものを有せざる民である。吾人は彼等の過去に就いては、彼等の大いに誇りとする系圖以外には殆んど何等知る所がない。彼等は財産としては若干の寶石とかその他の僅少ななる嵩張らぬ小形財寶を有する以外には餘り多くの財産を有せず、その牧草が平常よりも乾燥し枯死する時には、周圍の國土に擴がり出ることを餘義なくせられる。而

して、彼等は乘馬の熟練を利用して屢々歴史の中に血路を開拓したのであるが、十三世紀より十六世紀に至る支那に於ける蒙古人の如く一王朝を残すに非んば權花一朝の夢と直ちに消滅するのが常であつた。

却説、先きに、困難地域の關係の變化に就いて提起せられた問題は今又、此の遊牧地域に關しても呈せられる。

即ち灌漑の行はれると共に、又露西亞人の植民の進むと共に、遊牧民は次第に定着民に變じ、又は變じつつあるのである。此の爲め、遊牧地域は、従來は民族移動の根源地であつたが、此の遊牧地域の役割にも決定的の變化がもたらされるであらう。

以上は、歴史の存在する古い國土に就いて述べたのであるが、尙アフリカの大部分も遊牧地域である。併しながら、此等の中には、努力によつて福祉増進地域に達した地域も存すれば、それと反對に、如何に近代的手段を講じようと

も依然飢餓地域として運命づけられてゐる如き地域も存在する。

新大陸に就いて言へば、アメリカの地域は、歐羅巴人の増加と共に益々分化するに至つた。カリフォルニア、智利の一部、ブラジルの或る地域などは福祉増進地域として分類せられて差支なきものとして現れ來つた。土人にとつては遊牧の地域であつた廣大なる空間が歐羅巴人にとり、又殊に歐羅巴人と土人との雜種にとつて、努力をだに支拂はゞ時の経過につれて次第に好き報酬をもたらす地域となつたのであるが、その苦惱の努力地域は舊世界に於ける同一クラスの地域に比較せられるのである。

以上を總括すれば次表の如くなる。(省略、原著一六九頁參照のこと)

さて、或る地域の生活は海岸との接觸に於いて變化せざるを得ぬ。海岸の男子は屢々海上にあり、そのため女子の自尊心と自由とを高潮することとなり、他面、海岸の住民は自然、周圍

の田園人から疎隔することとなり、かくて、漁村の住民は屢々猜疑心深く、孤立して、外部人とは餘り通婚せず、多くはその仲間の中で結婚するのである。併しながら、之れを文明の觀點より言へば、文明は海岸に沿つて傳播し、その傳播の速度は處女林を通じての文明傳播のそれよりは遙かに大であつた。森林は古代に於いては文明の影響に對しては寧ろ明確なる限界をなしたのであつたが、海は之れとは大いに趣を異にしたのである。

以上に、飢餓地域、永續的困難地域、努力地域、福祉増進地域、遊牧地域、魯鈍地域なる六種の人文地域に就いて述べたが、此等各種地域間の境界乃至は限界を餘りに精確に固定せしめてはならない。此等の各種地域は其の接觸帶 (zone de contact) に於いて親密に相干涉するのである。線的の境界で交ると言ふよりは帶 (zone) で接觸すると考へた方がよろしい。事實接觸帶の觀念の方が線の境界の觀念よりも遙か

に多産的 (Fecund) である。而して此の接觸地帯に於いて、各地域の生産が交換せられるのであり、かくて此の接觸地帯は都市地帯となるのである。例へば南獨乙の山地が北方ロシアの平原に降る所の如きかかる接觸地帯に當る譯で、此の帯に沿つて、ケルン、マグデブルグ、ハルレ、ライプチヒ、ドレスデン、ブレスラウ、等の諸都市が存在するのである。

二つの地域間に、言語若しくは人種上の一大相異が存在する時、吾人が其の間に變化の現はれるのを見るのは、山嶽の麓に存する縁邊地帯 (zone de bordure) を横ぎる場合に於いてである。而して此のことに關して、山頂よりも寧ろ山麓の方が境界としての役目を演ずる。かかる事實はベンガル (Bengal) の平野よりヒマラヤ山麓の國土に進む場合に可なり明瞭に認められる。即ちヒマラヤ山麓地帯は例へばネパール (Nepal) とかブタン (Bhoutan) とかの如く、寧ろ蒙古的の地域である。又、同様にして、英語

が行はれなくなるのは、ウエールス山地の麓に於いてであり、それより山中に入るに從ひ次第に古い言語が卓越するのを見る。

縁邊地帯の若干に於いては、文明に對する種々なる貢獻の多くが相融合した爲め、それが、人道の大なる指導者となつたのである。

エーゲ海は地中海に境を接し、その海岸は山嶽と地隙 (ravins) との困難地域を縁どり、加之、草地即ち遊牧地域がこれと僅少の距離に存在するのであるが、先古典時代に關する探究は、漸く、此等相異なる地域がギリシア文明の上に與へた影響に就いて下知せしめんとしてゐる。

同様の探究は、又、露西亞南部の草地と落葉樹林の國土との間の縁邊地帯の演じた役割を評價せしめる。ミール (J. L. Myers) によれば、鋤の使用が發達し、歐羅巴の生活に對する他の貢獻を致すに至つたのは、此の地域若しくは類似の一地域に於いてであるとのことである。又、佛蘭西は、他の人も注意した如く、謂はば地中

海地域、即ちあらゆる古き文明の地域たる地中海地域と、不斷の努力によつて次第に征服せられた落葉樹林帯との間に挿まれてゐる。此の佛蘭西は、或る意味に於いては、又かかる接觸地帯の一例であり、而して、エーゲ海の如く、佛蘭西は歐羅巴文明の指導者の大なる役割を演じたのである。吾人は又同様の筆法を以て、支那に於ける北京、印度に於けるデーリーやアグラ (Delli, Agra) の役割を説明し得るであらう。

併しながら、吾人が以上に言ひ來つたことは、吾人が相異なる別個の地域に就いて語るにしても、吾人は決してその排他的、獨占的なる狭き概念を作らんと欲するものではないことを示すに充分であらう。それは釘着けにされ固定せられた境界を有せざる地域、而して特殊の性格を有し、獨立の活動中核を持つ所の、縁邊地帯によつて互に相接觸する所の地域でなければならぬのである。

以下に、も少しく、人文地域なるものの概念

を深めることを試みよう。

一體、人文地域とは何であるか、即ち、之れを一の人文地域と呼び得るに充分なる單一性 (unite) と同時に此の單一性の中に可なりの多様性 (variété) を有する所の地表の一部分なる人文地域とは何であるか。

歐羅巴の諸國家は凡て、或ひは殆んど凡て、かかる單一性を有する爲めには餘りに大き過ぎる他面、市町村の單位 (unite) にしても小教區の單位にしても、共に、可なりの生活を反影し得るためには餘りに小さ過ぎ、従つて此等は何れも殆んど地域 (region) なる稱呼を受ける資格はないのである。

本論文の初めに、吾人は、人間を生命と努力との恒久的源泉、生命の躍進 (élan vital) の創造者として考へた。實際それは、假令吾人は可なり稀にしか其のことを意識しないのであるが、大いに吾人の行動行爲を決定する所の傳統とか想像とかの基本である。此の精力の基本は、

共に住み、相互に相補ふ仕方であらうの群、即ち集團の全成員に共通である。地球上には、住民の大部分が共通なる習慣、共通なる理想、共通なる存在方式の可なりを有し、かくて相互の理解の大なる能力を有するが如き地表部分が存在し得る。此等の住民にとりては、彼等同郷人の觀點を理解するに至るにも、又彼等の習慣上の小差異を理解するにも永い研究は要しないのである。而して、可なり密接なる交換と接觸とが存するといふ條件に於いてならば、職業上の大なる齊一性は有する必要がないのである。併しながら、單なる一の小教區とか一の市町村とかを問題とするならば、一斷片以外(上)のものとして、その地區 (district) を記述するためには、餘りに多くの生活要素を缺くのである。

其れ故、決定的價値を有するであらう所の人文地域を決定するためには、小教區とか市町村とかよりも更に廣い地區、其處には至る所に接觸があるであらうと共に、又單一性の中に差異

性 (diversité) のあるであらう所の、更に廣い地區を求めることが必要である。

かかる廣い國土に於いては、吾人は、その市民郷土人の生命の躍進の總和が、著しき社會的躍進 (élan social) なる一の全體をなすを見るであらう。この社會的躍進なるものは、住民の共通に有するあらゆるものの總和であるが、それは、時に應じて、經濟的領域に於ける、又、道徳的、知的領野に於ける、種々なる行動行爲の源動力ともなることを得るのである。其れ故、科學的進歩を獎勵鼓舞せんとする心懸けを有するものは、人文地域なるものの分析の仕事に對

備後の名勝山野峽 (猿鳴峽及古谷川の峽谷) (二)

して注意を拂ふ理由を大いに有する譯である。此の種の研究に於いて、ヴィダル・ド・ラブラーシエ (Vidal de la Blache) が、學校教育に於いて、將亦その「佛蘭西地理敘述」(Fadjean de la Géographie de la France) の中に發表した理念の作用の下に、佛蘭西地理學が一の先驅者となつたことは、佛蘭西地理學の榮譽である。尙、之れを實用上より論ずるも、吾人が人文地域に於ける全體の理念に従つて働く場合には、吾人は危険なる斷裂を避け得る機縁を有する譯である。

(昭和六年稿、昭和八年五月三十一日補足)

吉 野 益 見

二、北 部 (奥峽)

此峽谷は概して直線をなすも、節理のために

小屈折をなす所あり、こゝに大なる正面瀑懸り風致の豪壯なるもの多く、淵瀨及深林美の存在